

資料

部落解放研究関係文献目録

(一九八四年十月～十二月)

【現状】

- 編集部「ヘグラビア」鹿児島の被差別部落
- (『部落解放』二一九号、10月)
- 編集部「鹿児島の被差別部落」(同右)
- 村尻勝信「(動向)運動・宮崎県における部落問題の現状」
- (『部落』四五〇号、10月)
- 吉村哲二「へぶらく西・東」その今昔に見る松阪市京町
- (『国民融合通信』一二四号、10月)
- 浜岡政好「部落の現状研究の成果と課題」
- (『部落問題研究』八一号、11月)
- 西部地区部落実態調査推進委員会『大阪部落実態調査西部地区報告書』(同上、11月)
- 杉之原寿一「杉之原寿一・部落問題著作集第三巻―中小都市部落の実証研究」(兵庫部落問題研究所、11月)
- 石元清英「兵庫の農村部落(1)―一九八四年部落実態調査報告」(『ひょうご部落解放』一七号、12月)
- 日野謙一「実態調査とその成果の意味―三木調査を終えて(5)」

(同右)

- 木村吾郎「出石町の杞柳製品」(同右)
- 瀬川負太郎「へぶらく西・東」地区改善とうなる北九州市北方地区」(『国民融合通信』一二六号、12月)
- 中山金治「ファッション化のなかの皮革製品業―かばん・袋物業界を中心に」(『経済』二四八号、12月)

【行政】

- 田中松月「戦後『同和行政』史を行く―日本国憲法の成立と部落問題」(『部落解放』二一九号、10月)
- 《特集》「社会的自立と同和行政」(『部落』四五〇号、10月)
- 真田 是「住氏の自立を保障する同和行政」
- 遠藤 晃「伝統型改良事業の抜本改革を」
- 河合幸尾「社会保障と同和対策」
- 今井光子「生きる力をひき出すために―大和高田・土庫病院でのとりくみ―」
- 山本敏貞「未解放部落の生活保護をめぐって―未解放部落における援護労働のあり方―」

田上和儀「昭和六〇年度同和对策関係予算要求をみる」

原野 題「同和行政と裁判②—行政庁の不作為と同和行政—」

(『部落問題—調査と研究』五二号、10月)

真田 是「今日の同和行政の見直し問い直しをめぐって」

(『部落問題研究』八一号、11月)

萩田哲男「全国の自治体における個人給付をめぐる動向」

(『部落解放研究』四二号、12月)

小林 茂「同和行政入門」(『部落解放』二二二号、12月)

西岡 智「戦後大阪の部落差別の実態と行政闘争」(同右)

向井 正「今日の部落差別の実態と同和行政」(同右)

鈴木 元「(動向) 行政・国民的融合論を認めた京都市への意見

具申」(『部落』四五二号、12月)

大阪府同和对策審議会『部落差別につながる身元調査をなくする

方策について(答申)』(同上、12月)

【運動】

《対談》「冤罪と再審」(『部落解放』二一九号、10月)

佐々木哲蔵・竹沢哲夫「再審と狭山事件」

梅田義光・阿藤周平「冤罪が生み出される時—無実の元被告

は訴える」

《特集》「鹿児島部落解放運動」(同右)

恒岡松盛・藤原善左衛門ほか「〈座談会〉鹿児島部落解放

運動、同和」教育を語る」

丸山秀徳「〈ある闘い〉部落解放運動の裾野を広げる」(同右)

小森龍邦「部落解放への自覚と主体」(同右)

上杉佐一郎「世界の人権確立と部落解放運動」

(『社会啓発情報』二二号、10月)

佐々木哲蔵「〈出会い〉狭山事件と私」(同右)

山中多美男「『地対協』意見具申とその具体化」(同右)

(資料)「一〇五の新証拠—再審全証拠一覽」

(『狭山差別裁判』一三〇号、10月)

土屋吉生「部落解放第一六回全国高校奨学生集会」

(『解放教育』一八四号、10月)

磯村英一・山中多美男「〈同和問題対談〉差別糾弾を考える—地

対協意見具申をめぐって」

(『朝日ジャーナル』一三四二号、10月)

沼井鋭二「広島県立図書館『図書廃棄』事件と『図書館の自由』」

(『赤旗—評論特集版』三八七号、10月)

図書館問題研究会広島支部「広島県立図書館の図書抜き取り別置

・破棄事件について」(『みんなの図書館』九〇号、10月)

野間 宏「狭山裁判一〇五—異議申立の棄却決定批判(四)」

(『世界』三四七号、10月)

新井直樹「茨城における組織建設の経過について」

(『解放の道—理論政策資料版』九号、10月)

藤谷義兼「京都市『改良住宅家賃値上げ』問題と京都市協の闘

い」(同右)

山田幹雄「同和地区人口比の高い市町村に特例的財政措置を—和

歌山・御坊市におけるとりくみ」(同右)

松田仁司「『解同』裁判—審上回る控訴審判決」

(『国民融合通信』一二四号、10月)

《特集》「差別語・落書き問題」

(『月刊部落問題』九五号、10月)

上田敏幸「『差別落書き』考」

山口 明「篠山町『差別落書き事件』について」

瀬川貞太郎「差別語糾弾の喜劇」

池田孝雄「『差別落書き』雑考」

全解連大阪府連「いわゆる『差別落書き』問題について」

全解連大阪府連「再び『差別落書き』問題について」

篠同協「『差別落書き事件』報告集会・記録」

解放新聞社「解放新聞(縮刷版) 第一五巻 1982」

(同上、10月)

部落解放同盟中央本部「部落解放研究第一八回全国集会」

(同上、10月)

部落解放同盟高知県連合会「高知の部落解放運動 部落解放研究

第一八回全国集会活動報告」(同上、10月)

部落解放同盟中央本部「部落解放同盟第四一回臨時全国大会議案

書」(同上、10月)

「同和对策事業特別措置法」強化改正要求国民運動中央実行委員

会「全国のあいづく差別事件」(同上、10月)

部落解放同盟大阪府連合会「あいづく差別事件・1984」

(解放出版社、10月)

高野真澄「日本国憲法と部落問題」(解放出版社、10月)

部落解放同盟大阪府連合会日之出支部「日之出支部機関紙 解放

縮刷版(二)』(同上、10月)

部落解放研究所「部落解放西日本講座講演集 第九回」

(同上、10月)

部落解放研究北区集会実行委員会「部落解放研究第一三回北区集

会」(同上、10月)

部落解放同盟中央本部「資料・『地対協』意見具申に対するわが

同盟の見解」(『解放教育』一八五号、11月)

斎藤喜作「部落解放運動と裁判闘争」

(『解放の道—理論政策資料版』十号、11月)

中野初好「広島県立図書館図書破棄事件と部落解放運動」(同右)

岸上繁雄「〈資料〉いわゆる『興信所条例』について—大阪府同

和对策審議会への意見書」(同右)

渡辺久丸「一九八三年の部落問題と研究の課題—世界人権宣言三

五周年・解放立法論・八鹿高校事件判決—」

(『部落問題研究』八一号、11月)

松村晃一「大阪における危険な『興信所条例』制定の策謀につい

て」(『部落』四五二号、11月)

岸上繁雄「〈資料〉いわゆる『興信所条例』について—大阪府同

和对策審議会への意見書」(同右)

松岡 要「広島県立図書館の蔵書別置・破棄事件について」

(同右)

成沢栄寿「(動向) 運動・あらたな発展をめざして—国民融合全

国会議第十回総会」(同右)

《特集》『図書館問題』(『月刊部落問題』九六号、11月)

鍵本芳雄「『図書館の自由に関する宣言』について」

中野初好「民主主義の危機を告げる出来ごと」

(資料)「広島県立図書館で破壊された図書一覽表」

平岡昇「北九州市で差別事件のガラス張り糾弾学習会」

(『朝日ジャーナル』一三四六号、11月)

編集部「広島県立図書館の『図書破壊』事件」

(『赤旗—評論特集版』三九〇号、11月)

新橋二郎「最新版—同和団体の日本列島地図」

(『政界往来』五〇巻一一号、11月)

野間宏「狭山裁判一〇六一異議申立の棄却決定批判(四)」

(『世界』四六八号、11月)

部落解放同盟大阪府連合会向野支部『向野支部再建一五周年記念誌』(同上、11月)

部落解放第一一回住吉地区研究会集行委員会事務局『部落解放第一一回住吉地区研究会集行資料』(同上、11月)

部落解放同盟浪速支部ほか『部落解放浪速地区研究会集行資料』(同上、11月)

部落解放同盟中央本部『部落解放第二九回全国婦人集会報告書—解放をめざす婦人活動』(同上、11月)

部落解放同盟大阪府連合会婦人部『部落の婦人と女性差別撤廃条約』(同上、11月)

野間町部落解放研究会『熱と光 創刊号』(同上、11月)

部落解放同盟兵庫県連南但地区支部連絡協議会『南但馬の差別糾弾』(同上、11月)

弾闘争』(同上、11月)

友永健三「『部落差別にもとづく身元調べ規制条例』(仮称)制定にむけて」(『社会啓発情報』二二号、12月)

高野真澄「『部落解放基本法』の制定にむけて」

(『部落解放』二二二号、12月)

小森龍邦「今日の情勢と部落解放の課題」(同右)

在間秀和・北口末広「身元調査の実態と興信所・探偵社の規制」(同右)

山上益朗「狭山事件入門」(同右)

磯本恒信「平和と人権」(同右)

高橋正人「部落解放と反差別共闘」(同右)

泉谷進「あいつく差別事件と人権草の根運動」(同右)

編集部「連載2」一〇五の新証拠へ脅迫状作成のための用具・補助手段」(『狭山差別裁判』一三三二号、12月)

鎌元昌弘「(連載2) 狭山事件・報道と分析—捜査の初めにゆがみ」(同右)

本田豊「えん罪—狭山事件前史—二つの放火犯デッチあげ事件」(同右)

《特集》『国民的融合の理論と運動—学習と討論の前進のために』(『解放の道—理論政策資料版』十一号、12月)

村崎勝利「部落排斥主義との闘い—部落解放運動をめぐる二つの路線—」

石岡克美「行政の効用と限界—部落解放運動の最終責任論について—」

丹波正史「自立論—地域の視点から—」

村崎勝利「(動向) 運動・八四全閣第二次中央行動を展開」

(『部落』四五二号、12月)

矢野暉雄「(動向) 文化・広島県立図書館の蔵書別置・破壊事件をめぐる—全国図書館大会『図書館の自由』分科会—」

(同右)

丹波正史「市民自治と部落問題」

(『部落問題—調査と研究』五三三号、12月)

野間宏「狭山裁判一〇七一異議申立の棄却決定批判(四三)」

(『世界』三四九号、12月)

(資料)「(判決) 録・民事」一、住宅地区改良法二九条一項、公営住宅法二三条一項に基づき、市営住宅の家賃増額変更における市長の裁量権と市営住宅の建設目的等との関係 二、市営住宅の家賃に借家法七条二項の適用・準用を否定した事例 三、忌避の申立が濫用されたとして民訴法四二条の適用を否定した事例」(『判例時報』一一三二号、12月)

友永健三「『反差別』—世界の潮流と日本の課題—人権週間に寄せて」(『月刊社会党』三四四号、12月)

長谷川善計「杉之原寿一著『現代部落差別の研究』の野呂栄太郎賞受賞にあたって」(『経済』二四八号、12月)

大阪市同和事業促進協議会『よくしん縮刷版(二)』(同上、12月)

部落解放同盟大阪府連合会『部落解放府政推進に関する要求書 1985年度』(同上、12月)

部落解放同盟大阪府連合会『部落解放府政推進に関する要求書 1985年度』(同上、12月)

部落解放同盟大阪府連合会『部落解放府政推進に関する要求書 1985年度』(同上、12月)

部落解放同盟大阪府連合会日之出支部ほか『部落解放日之出地区研究会集行資料』(同上、12月)

研究会集行資料 日之出支部結成二五周年・日之出子ども会創立三〇周年』(同上、12月)

部落解放同盟埼玉県連合会『部落解放第四回埼玉県研究会集行資料』(同上、12月)

資料』(同上、12月)

豊中市同和事業促進協議会『豊中の差別事件・II』(同上、12月)

部落解放第一回浅香地区研究会集行委員会ほか『部落解放第一回浅香地区研究会集行資料』(同上、12月)

兵庫部落解放研究所『部落解放研究第六回兵庫県集行委員会資料』(同上、1984年)

部落解放兵庫県民共闘会議『第三回狭山現地調査報告』(同上、1984年)

解放新聞社兵庫支局『解放新聞兵庫版 第一一四号〜第一三〇号』(同上、1984年)

部落解放同盟大阪府連合会吹田光明町支部『統一支部十五年の闘い』(同上、1984年)

【理論】

実行委事務局「(動向) 研究・第十五回東日本部落問題研究会集行を終えて」(『部落』四五〇号、10月)

山本登「部落差別の社会学的研究」(明石書店、10月)

《特集》「一九八三年部落問題研究の成果と課題」

(『部落問題研究』八一号、11月)

木戸季市「解同綱領改正案をめぐる動向と問題点」
 師岡佑行「戦後部落解放論争史 第四卷」(祐植書房、11月)
 磯村英一・一番ヶ瀬康子・原田伴彦編「講座差別と人権第一巻 部落1」(雄山閣出版、11月)

部落解放・人権図書目録刊行会『部落解放・人権図書目録 No.2 (1985年)』(同上、11月)

編集部「部落解放研究文獻目録」

『部落解放研究』四二号、12月)

編集部「第六回全国部落解放研究者集会・部門別会議の報告

(一)」「(同右)

渡辺俊雄「部落解放理論入門」(『部落解放』二二三号、12月)

大賀正行「部落解放理論」『国民融合論』批判へ(同右)

編集部「部落解放」総目次(二〇六号～二二二号)」「(同右)

《特集》『国民的融合の理論と運動』学習と討論の前進のため
 に(『解放の道—理論政策資料版』十一号、12月)

枋崎博孝「国民的融合論について」

亀田順一「部落差別の性格規定と条件の変化」

藤谷義兼「二十一世紀を展望するためにあたってのいくつかの問題について」

《特集》『最近の理論状況について』
 (『月刊部落問題』九七号、12月)

高田弘彦「解放同盟の『綱領前文』改正について」

藤谷義兼「地区住民の自立について」

塚本景之「部落解放をめぐる最近の動向と『中西理論』」

鈴木 良「中西義雄の歴史研究について」

部落解放研究所「原田伴彦部落問題選集」(同上、12月)

部落問題研究所「戦後部落解放運動の理論と実践」(中西義雄部落問題著作集二)(合同出版、12月)

【解放教育】

尾寄一治「原初のいとみこそ大切に—鹿児島県の『同和』教育運動」(『部落解放』二一九号、10月)

《誌上シンポジウム—第二次教育制度検討委員会最終報告によせて—『現代日本の教育改革』を検討する(六) 総括》

(『解放教育』一八四号、10月)

鈴木祥威・大賀正行・中村弘三「鼎談・教育改革を自らの任務として」

大田 堯・小川利夫「第二次教育制度検討会から答える」

田村賢一「『解放教育実態調査』について」(同右)

横田三郎「(図書紹介) 中村弘三著『解放教育教科書』」

(同右)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか(第七回)—『啓発活動のあり方』(意見具申)と学校教育の課題」

(『学校運営研究』二八九号、10月)

磯本恒信「〈提言〉学校教育に期待する」

(『ながさき部落解放研究』九号、10月)

石出忠豊「同和教育の変遷(一) 同和教育に関する研修のため

に」(『教職研修』一四六号、10月)

——第三回全国作文教育研究大会に出席して——

堺市同和教育研究会「平和人権学習交流会」

源 勁一「主任制・教育臨調と『同和』教育運動」(同右)

西下普児「全国教大会・この結果を力に」(同右)

全国同和教育研究協議会「資料・地域改善対策協議会意見具申—『今後における啓発活動のあり方』に関して」(同右)

中村弘三「ルポ・教育現場・1—リョーとオッチャンと先生たち」(同右)

《特集》『九州における解放教育』

(『解放教育』一八六号、11月)

林 力「九州における『同和』教育運動の発展と若干の課題」

岡山直和ほか「各地の状況—福岡/佐賀/長崎/熊本/大分/宮崎/鹿児島」

〈2章・実践レポート〉

伊藤憲明「子どもの生活現実を知るほど一歩も後には退けな

ら」

小西清則「部落解放奨学金『貸与化』反対の取り組みを通じ

て」

諸井暢三郎「剪定する時は木の良さを出すとな」

横道信哉「やっぱあ、地元でやっちなあま」

山下繁三郎「A子のおもいを受けつぐ子どもたち」

本山 修「おいは言いたかー」

馬原鉄男「『教育臨調』と部落問題」

(『解放の道—理論政策資料版』九号、10月)

荒尾立夫「(現地報告) あたりまえの教育をねがって—泉佐野市

長坂小学校の父母・教職員のとらぐみ」

(『部落』四五〇号、10月)

石田真一「連載・部落の青春——『破戒』」

(『月刊』の子も伸びる)九〇号、10月)

東上高志「講座・同和教育の実践(第七回)—文学的教育」

(同右)

大阪府同和教育研究協議会豊能大会現地実行委員会『大阪府同和

教育研究豊能大会第十七回実践報告集』(大同教No.58)

(大阪府同和教育研究協議会、10月)

関西大学「講演記録・人権問題に関する講演会」(同上、10月)

桃山学院大学「現地研修学生実行委員会ほか『被差別部落—その

現実の提起するものIV』(被差別部落松原地区現地研修報告

書(同上、10月)

《特集》『芸術を子どもと考えるとき』

(『解放教育』一八五号、11月)

鈴木祥威「子どもの美意識について」

妹尾敏雄「シーサー」

平野育子「はたむすびのおばあちゃん」

安谷屋武人「奪われた感性」

丸木 俊「絵本の語」

玉本 格「差別めぎの『生活綴方と同和教育』はありえない

蘭 博明「どうして奄美を差別するの。」
 田村朝子「子どもたちのつなかりを求めて」
 古市安治「こは、日本の夜明けじゃ」
 井手敏之「T男が鼻歌を歌った」
 坂本帝治「正博が入学するまで」
 山崎雪江「歩み出した就学前学級」
 三尾隆平「いいたいことがいたくて」
 愛甲伸一「ムラのじいちゃんばあちゃんに共られつ」
 石田眞一「同和教育研究の今日的課題」
 (『部落問題研究』八一号、11月)
 ≪子どもの自立と進路≫ (『部落』四五一号、11月)
 石田眞一「子どもの自立と進路をたしかなものに」
 菅野照代「『自立』について考えたこと」
 谷口幸男「地域における進路保障のとりくみと問題点―和歌山県印南町切目のとりくみ―」
 山田 稔「十五の春」を泣かせないために―滋賀における高校進学問題へのとりくみ―
 山本洋子「真の子どものしあわせ願って」
 下村則夫(動句)「教育・第三回作文教育研究大会―『生活綴方と同和教育』の分科会から」(同右)
 石田眞一「連載・部落の青春―崇仁教育」
 (『月刊』の子も伸びる』九一号、11月)
 村橋 端「現場訪問」新堂小学校(大阪府富田林市) (同右)
 東上高志「講座・同和教育の実践(第八回―集団の教育)」

(同右)
 鈴木祥威「学校を被差別民衆の手にとりもどす」
 (『教育評論』四四九号、11月)
 石出恵豊「同和研修の変遷(一)―同和教育に関する研修のために」(『教職研修』一四七号、11月)
 全国同和教育研究協議会事務局「全国同和教育研究大会第三六回大会報告書集」(同上、11月)
 光村図書編集部「同和教育の視点に立った国語教育の展開例―学校「国語」の教材に即して」(光村図書出版、11月)
 同和教育における授業と教材研究協議会「新・はぐるま」の授業」(部落問題研究所、11月)
 部落問題研究所「はぐるま11」(同上、11月)
 松原市立布忍小学校「歯、くいしばって―生いたち、生活、労働、その「語り」の教材化」(同上、11月)
 松原市立布忍小学校「部落問題学習実践資料集(四・五・六年)―地域と生活・集団に根ざした部落問題学習の深まりを求めて2」(同上、11月)
 1」(同上、11月)
 松原市立布忍小学校「部落問題学習実践資料集(一・二・三年、六年)―地域と生活・集団に根ざした部落問題学習の深まりを求めて2」(同上、11月)
 桃山学院大学人権問題研究・資料室「桃山学院大学人権問題研究・資料室報 第四号」(同上、11月)
 平野支部子ども会委員会「子ども会第三次狭山現地調査」(同上、11月)

部落解放同盟大阪府連合会日之出支部教育対策委員会「子育て―問一答集 次代の部落解放の担い手を育てるために」(同上、11月)
 日之出子ども会創立三十周年記念誌編集委員会「日之出子ども会創立三十周年記念誌」(日之出子ども会創立三十周年・日之出支部結成二五周年記念事業実行委員会、11月)
 全国解放保育連絡会・香川県就学前「同和」教育研究会実行委員会「全国解放保育第七回研究会・香川県就学前「同和」教育第一回研究会」(同上、11月)
 全国同和教育研究協議会「全国同和教育研究大会第三六回大会資料」(同上、11月)
 熊本県同和教育研究協議会「熊本県における高校生部落問題意識調査の結果から」(『部落解放研究』四二号、12月)
 ≪特集≫「部落差別と大学」(『部落解放』二二二号、12月)
 村越末男「大学と部落問題」
 八木晃介「大学における「差別」と「知」の構造」
 ≪部落出身学生の見た大学≫
 松島幸洋「東洋大学・部落問題を排除した研究・教育体制」
 S・T「大阪経済法科大学・差別著書を認めなかった大学」
 吉田 明「花園大学・差別の責任転嫁をはかった大学」
 浦田文久・竹市 淳「鳥取大学・全学的『同和教育』の実質化を」
 横井 清「部落問題を富山県で考える」

田中敏隆「大阪教育大学における同和教育の取り組み」
 増田史郎亮「長崎大学における『同和教育』への取り組みと現況」
 小川 悟・八木晃介「(対談) 今、学生に何を伝えるか」
 横田三郎「臨教審の思想と解放教育」(同右)
 鈴木祥威「教育」「臨調」と解放教育」
 (『部落解放』二二二号、12月)
 北山貞夫「同和教育入門―体験を中心に」(同右)
 玉置哲淳「同和保育の歴史と課題」(同右)
 山中多美男「差別事件と同和教育の課題」(同右)
 ≪特集≫「再び進路を閉ざす重症に抗して―今、何をなすべきか」(『解放教育』一八七号、12月)
 中川福督「『統一用紙』が果たしてきた役割とその思想」
 石岡隆允「高校中退問題の克服をめざして・広島から」
 部落解放同盟前川支部「高校中退問題の克服をめざして・三重から」
 ≪部落研 奨学生の闘い≫
 平田浩三「俺の進級を泣いて喜んでくれた母ちゃん」
 橋本伸次「高校を卒業するにあたって」
 松下隆子「私にとっての部落研」
 笹本みゆき「私にとっての眞実」
 中川節生「定員内不合格措置をなくすために」
 花田啓作・吉田文男・六島純雄・森 教員・佐藤耕寿・寺澤亮一(司会)「座談会」就職保障・その攻防―『統一応募用

紙「改悪と各地の闘り」(同右)
 佐藤三郎「最近の中等教育改革案に対する批判」(同右)
 中村三「ルポ・教育現場・2—友だちを待てる子どもに」
 (同右)

吉沢恵次「兵庫部落出身教職員の会だより—兵庫部落出身教職員
 の会結成」(『ひょうご部落解放』一七号、12月)

《部落問題の正しい理解のために》(『部落』四五二号、12月)
 東上高志「部落問題の正しい理解のために—地対協の『意見
 具申』の積極面を發展させるために、いましなければなら
 ないことと、してはならないこと—」

〈やるべきこととやっちゃってはいけないこと〉

浜田博生「いま なにを しなければならぬか」

河瀬哲也「生活指導と教科指導の面から」

谷口幸男「展望のある学習の創造を」

辻多喜雄「義務教育終了までの人権学習」

阿部義宣「いま これだよのか」

岡武祐史「子どもの心に迫る同和教育を」

吉川 徹「壁を乗り越える道」

中野 功「高等学校就職用統一応募用紙の『改訂』が投げかける
 諸問題」(同右)

編集部「〈同授研の教育実践9〉授業研究運動と菅野小学校」

(『月刊』の子ども伸びる』九二号、12月)

山本徳子「〈教師訪問〉小林信一先生(和歌山県御坊小学校校
 長)」(同右)

東上高志「〈講座・同和教育の実践〉連載9・その授業の三本柱

③」(同右)

石田真一「部落の青春—『国民学校令』」(同右)

村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか(第九

回)—第九回全国大学同和教育研究会について」

(『学校運営研究』二九一号、12月)

全国同和教育研究協議会事務局「部落問題学習の創造」

(全国同和教育研究協議会、12月)

佐古田好一・河野幹雄編「子どもを伸ばす生活綴方」〈どの子ども
 伸びる教育実践シリーズ〉(青木書店、12月)

近畿大学同和教育研究会「フィールドワーク報告集84 私たちが

学びとった被差別部落の現実Ⅲ」(同上、12月)

大阪府私立学校同和教育研究会—泊研運営委員会「私学同研第六

回夏期一泊研究会報告」(同上、12月)

林 力「問題提起 同和教育運動の当面する課題についての一
 考察 教育現場に多発する差別事件の克服をめざして」

(同上、1984年)

【人権】

《特集I》「ヒロシマ・ナガサキをどう語るか」

(『ヒロシマ・ナガサキの証言』十二号、10月)

《特集II》「今なぜ被爆者援護法か」(同右)

《特集》「国家賠償の理念と実際」

(『自由と正義』三五卷十一号、10月)

佐々木恭三「無罪判決と国家賠償—二つのケースを通して途
 法性の判断を考える」

倉田哲治・北山六郎・島田正雄・竹沢哲夫「(座談会) 弁護
 人が語る死刑再審三事件無罪確定の意義」

《特集》「ILO条約と労基法」

(『学習のひろば』二七二号、10月)

柳川和夫「ILO紹介・設立趣旨とILOの中の日本」

中山和久「労働時間短縮—それは人間の尊厳」

松岡三郎「深夜・交替労働—国際基準の視点欠落」

大羽綾子「女子保護と男女平等のILO基準」

横山不二夫「年次有給休暇—先進国の『番外地』日本」

西山卯三「勤労者住宅—『社宅』否定の国際常識」

関弥一郎「『女権論』寛書(2)—イギリスの『1975年・男
 女差別処遇禁止法』の概要」(『横浜国立大学人文紀要 第一

類哲学・社会科学』三〇号、10月)

金 東勲「人種差別撤廃条約批准のために(4)—第五条権利享
 有における非差別・平等 第六条人種差別に対する救済」

(『社会啓発情報』二二号、10月)

鎌元昌弘「あらたな出発点として—『免田・財田川・松山再審無
 罪の次を考える』研究会メモ」

(『狭山差別裁判』一三〇号、10月)

薬師寺公夫「人権条約に付された留保の取り扱い—人権条約実
 施機関の対応の仕方を中心として」

(『国際法外交雑誌』八三巻四号、10月)

北村泰三「米州人権委員会による現地調査活動」(同右)
 労働大学調査研究所・婦人部会「雇用機会均等法案審議の記録
 —衆議院社会労働委員会—1984年(上)」
 (『月刊労働組合』二二二号、10月)
 (資料)「判例特報(2) 外国人登録法の指紋捺捺に関する規定
 が合憲であるとされた事例—外国人指紋捺捺拒否事件第一審
 判決」(『判例時報』一一二五号、10月)
 平松 毅「〈条例コーナー〉春日市個人情報保護条例(昭和59年
 7月7日/春日市条例第二二二号)」
 (『ジュリスト』八二二号、10月)
 高田昭正「無罪事件と国家賠償—最近の三判決をめぐって」
 (同右)
 丸山輝久「メンツだけの『日石・土田邸・ピース缶爆弾事件』控
 訴」(『朝日ジャーナル』一三四二号、10月)
 阪本昌成「アメリカ連邦プライバシー法における閲覧・訂正
 権」(『法律時報』六八八号、10月)
 田中 宏「外国人指紋をめぐる立法事実と現状(下)」(同右)
 堀部政男「情報公開とプライバシー保護(下)」(同右)
 隅谷三喜男・渡辺道子ほか「(座談会)働く女性にとって『平等』
 とは—雇用均等法が招く不安の構図」
 (『エコノミスト』二五八八号、10月)
 小田きよ子「道外ウタリ青年の群像—『アイヌに関する法律案』
 採択を機に」(『世界』四六七号、10月)
 本田 豊「えん罪—狭山事件前史—(5) 常光村尊統殺人デッチ

- あげ事件」(『狭山差別裁判』一三〇号、10月)
 田村紀之「戦後在日韓国・朝鮮人人口の推計」
 (『経済と経済学』五五号、10月)
 アジア地域教育協力室「アジア太平洋地域における成人教育」
 (『国立教育研究所研究集録』九号、10月)
 桑原敏明「へ世界の子どもと教育」フランスにおける落ちこぼれ
 (落第)問題と教育制度改革の諸相」
 (『教育』四四四号、10月)
 菅 孝行・小谷汪之「円卓トーキング4、アジアの近代と差別」
 (『円卓会議』一卷四号、10月)
 部落解放研究所「差別撤廃への道—解説・人種差別撤廃条約」
 (同上、10月)
 世界人権宣言中央実行委員会「雇用と平等・人権—シンポジウム・
 講演会資料」(同上、10月)
 ドナルド・グロップマン著・小中陽太郎訳「折れた黒バット—ジ
 ョー・ジャクソンとブラック・ソックス事件」
 (ベースボール・マガジン社、10月)
 TUC著・水村光一訳「失業への挑戦」(時潮社、10月)
 在日韓国・朝鮮人の国民年金を求める会「国籍差別との闘い—年
 金裁判勝利への記録」(凱風社、10月)
 アジア経済研究所「発展途上地域日本語文献目録1983」
 (同上、10月)
 労働省婦人局「婦人労働の実情 昭和59年度」
 (大蔵省印刷局、10月)
- 大谷 強「ノーマライゼーション研究会の結成」
 (『月刊自治研』三〇二号、11月)
 《特集》「女性と労働」(『経済評論』三三巻十一号、11月)
 久場燿子「女性労働と労働力の再生産」：ほか
 堀内 稔「神戸のゴム工業と朝鮮人労働者」
 (『在日朝鮮人史研究』十四号、11月)
 平林久枝「朝鮮戦争期間中の神奈川県下の反戦活動について」
 (同右)
 樋口雄一「自警団設立と在日朝鮮人」(同右)
 金 静美「和歌山・在日朝鮮人の歴史」(同右)
 (資料)「樺太庁警察部「樺太在留朝鮮人一班」(統 (192
 7)」(同右)
 《特集》「古代国家と女性」(『歴史公論』一〇八号、11月)
 田口裕子「庶民の女性の地位」
 神野清一「婢と主人」
 《特集1》「戦後史におけるヒロシマ・ナガサキ」
 (『平和研究』九号、11月)
 福島新吾「原爆情報の特外」
 立花誠逸「核戦争の危機と民衆—西ヨーロッパ平和運動の再
 生要因」
 松元 寛「ヒロシマとナガサキ—その意味を考える視角」
 西川 潤「平和と開発」広島・長崎・沖縄の意味」
 《特集2》「アジアの平和秩序のために」(同右)
 《特集3》「平和研究の現段階と平和学の課題—『平和学—理論
 岩波書店編集部「WOMEN351—女たちは21世紀を」
 (岩波書店、10月)
 もろさわようこ「おんな・愛と抗い—近・現代のあゆみ」
 (ドメス出版、10月)
 (グラビア)「差別撤廃の国際的な輪を」
 (『部落解放』二二〇号、11月)
 上杉佐一郎「(荆冠旗) 世界の人権擁護の闘いと日本の部落解放
 運動」(同右)
 友永健三「国際連帯を強め部落解放を—国連差別防止少数者保護
 小委員会に参加して」(同右)
 (資料)「国連差別防止・少数者保護小委員会への訴え」
 (同右)
 谷元昭信「良心を取り戻そうとする宗教者—第四回世界宗教者平
 和会議に参加して」(同右)
 WCRP日本委員会「(資料) 部落問題にたいする基本的態度」
 (同右)
 《特集》「フライバシーと法」
 (『法学セミナー』三五九号、11月)
 佐藤幸治「フライバシーと知る権利」
 阪本昌成「フライバシーと表現の自由—事前抑制の問題を中
 心に」
 浅野健一「フライバシーと報道の自由—無罪推定と実名報道
 の問題を中心に」
 堀部政男「フライバシーとニューメディア」
- と課題』をめぐる誌上討論」(同右)
 指紋捺捺拒否予定者会議「(資料) 指紋捺捺拒否予告宣言」
 (『季刊三千里』四〇号、11月)
 (資料)「『季刊三千里』総目次創刊号〜第四十号(一九七五年
 春〜一九八四年冬)」(同右)
 《特集》「労働基準法改正論議の焦点」
 (『ジュリスト』八二四号、11月)
 横田耕一「Affirmative Action 計画の制限— Crawford
 v. Board of Education, 102S. Ct. 3211(1982)」
 (『ジュリスト』八二五号、11月)
 和田幹彦「国連人権小委員会だより(上)—国連人権小委員会1
 984年の活動」(同右)
 クロード・ロシリオン「インタビュ—差別撤廃のための国民的
 合意を—ロシリオン権利平等部長に聞く」
 (『世界の労働』三四巻一—号、11月)
 (資料)「第2回アフリカ難民援助国際会議で採択された」宣言
 『と』行動計画』(要旨)「(『月刊国連』六三巻九号、11月)
 駐日EC委員会代表部広報部「欧州共同体における婦人の『機会
 均等』」(『月刊ECジャーナル』九六号、11月)
 佐々木信彰「中国・都市における散居少数民族」
 (『経済学雑誌』八五巻四号、11月)
 田中 宏「指紋捺捺拒否が問いかけているもの—民族差別の象
 徴を存続させるのか」(『エノニスト』二五九三号、11月)
 労働大学調査研究所・婦人部会「雇用機会均等法案審議の記録

—衆議院社会労働委員会—1984年(中)「
 『月刊労働組合』二二二号、11月」
 矢野文一「春日市個人情報保護条例の概要」
 (『NBL』三二六号、11月)

佐藤文夫「国際人権保護手続における被害者概念」

(『一橋論叢』九二巻五号、11月)

カール・バサック編「人権と国際社会上・下」

(世界宗教者平和会議日本委員会・庭野平和財団、11月)

明石書店編集部「朝鮮にかかわる差別表現論」

(明石書店、11月)

平塚らいてう著作集編集委員会『平塚らいてう著作集、補巻、写
 真・書簡・年譜・著作目録』(大月書店、11月)

カメンカ、イアスーン・ティ編・西尾孝司訳『人間の権利—その
 近代的形成と現代的展開』(未来社、11月)

トッカビ子ども会『チング・ワアハムケ(なかもと)』トッ
 カビ子ども会10周年記念誌』(同上、11月)

新屋英子『身世打鈴—ひとり芝居の世界』(手鞠文庫、11月)

井手川泰子『火を産んだ母たち—女抗夫からの聞き書』

(葦書房、11月)

四宮恭二『国会炎上—1833年—ドイツ現代史の謎』

(日本放送出版協会、11月)

大阪同和問題企業連絡会『冬の大地に春を—「アイヌ問題」を現
 地に見る』(同上、11月)

大養道子『人間の大地』(中央公論社、11月)

《特集》「差別撤廃への国際的経緯と日本の課題」

(『部落解放研究』四二二号、12月)

久保田洋「『アジア人権センター』設立を考える—二世
 紀の大阪に向けて—」

(同上)

浅田和茂「西ドイツ刑法における差別行為処罰規定につい
 て」

戸塚悦朗「人権後進国・日本—日本の精神衛生行政、国連
 で告発される—」

(同上)

上杉佐一郎・金 東勲「(資料紹介) 国連人権委員会差別防
 止・少数者保護小委員会での訴えと日本政府代表の答弁。○
 部落差別をはじめ一切の差別の撤廃を○在日韓国・朝鮮人
 に関する陳述○日本政府代表の答弁」

佐藤典子「ラテンアメリカにおける人権」(同右)

ワレリー・テレギン「(海外研究動向) ソ連と世界人権宣言」

(同右)

研究所人権部会「(資料) あらゆる形態の人種差別撤廃に関する
 国際条約第四条・七条の実施に関する研究(1)」(同右)

村越末男「世界の旅から」(『社会啓蒙情報』二二二号、12月)

友永健三「雇用と平等・人権—ILOよりゲストを招いて」

(『部落解放』二二二号、12月)

野村義一「アイヌに対する差別の実態と新法制定の要求」

(同右)

和田幹彦「国連人権小委員会だより(下)—国連人権小委員会と
 日本の関わり」(『ジュリスト』八二六号、12月)

鈴木利廣「患者の権利宣言」(同右)
 《ジブシー》(『ユネスコ・クローリエ』二四巻十二号、12月)
 《特集》「ノーマライゼーションとは」
 (『季刊福祉労働』二五号、12月)
 横川敏雄・加藤尚武・西部 邁・畔柳達雄・喜田村洋一・倉田哲
 治「(座談会) 誤判と陪審を語る」
 (『自由と正義』三五巻十三号、12月)
 北山六郎「冤罪と再審」(『部落解放』二二二号、12月)
 本多淳亮「女性差別撤廃条約と男女雇用平等法」(同右)
 西岡 務「障害者差別の現状と課題」(同右)
 芹田健太郎「人種差別撤廃条約と課題」(同右)
 山中速人「マイノリティシリーズ①—少数者としてアメリカを
 生きる」(『ひょうご部落解放』一七号、12月)
 直原弘道「(書評) 『兵庫の在日朝鮮人生徒にかかわる教育と運
 動』発行 兵庫在日朝鮮人教育を考える会」(同右)
 佐世省吾「障害者の立場から—言語の障害と差別構造」
 (『おおいた部落解放史』二二号、12月)
 《犯罪報道と人権》(『朝日ジャーナル』一三四九号、12月)
 浅野健一・青木 彰・柴田鉄治「討論・『被疑者—匿名』の
 原則は是非か」
 浅野健一「三億円事件誤認逮捕の元職員の場合」
 《特集》「第三回全国人権擁護委員連合会総会」
 (『人権通信』一一二二号、12月)
 《特集》「指紋捺捺と外国人の人権」

(『ジュリスト』八二六号、12月)

声部信喜・大沼保昭・黒木忠正・橋本公宣「外国人登録制度
 と指紋捺捺問題(座談会)」

萩野芳夫「指紋捺捺と憲法判断の基準」

芹田健太郎「内外人平等原則と品位を傷つける取扱いの禁
 止」

伊藤勉郎「各国の外国人指紋捺捺制度」

渡辺千寿子「婦人労働と保育問題—ヨーロッパ四カ国の動向」

(『社会学部論叢』一七号、12月)

三富紀敬「フランスにおける派遣労働者の組織化と運動」

(『法経研究』三三巻二二号、12月)

労働大学調査研究所・婦人部会「雇用機会均等法案審議の記録
 —衆議院社会労働委員会—1984年(3)」

(『月刊労働組合』二二三号、12月)

砂古口早苗「(国際) 見通し暗い韓国、フィリピンでの人権回復
 —パテル・バキスタン最高裁判事に聞く—」

(『朝日ジャーナル』一三五二二号、12月)

《特集》「指紋捺捺と外国人の人権」

(『ジュリスト』八二六号、12月)

山下泰子「婦人差別撤廃条約における男女平等(2)—教育につ
 いての男女平等の展開—」(条約)までの過程」

(『文京女子短期大学経営学紀要』三三三号、12月)

野口武徳「海上漂泊漁民の差別の構造(2)」(『日本常民文化
 紀要』一〇号、12月)

世界人権宣言中央実行委員会『人権白書―被差別者の立場より』

(解放出版社、12月)

労働基準広報編集部『労基法研究会中間報告』

(労働基準調査会、12月)

西川潤『飢えの構造―近代と非ヨーロッパ世界』(増補改訂版) (ダイヤモンド社、12月)

山際素男訳・M・R・アナンズ著『不可触民バクハの一日』

(三一書房、12月)

竹内一夫『アメリカの平等雇用―日本への教訓』

(中央経済社、12月)

小川悟監訳『ナチス時代の「ジプシー」』(世界差別問題双書

I) (明石書店、12月)

緒方貞子・アンセルモ・マタイス編『世界の難民』

(明石書店、12月)

大阪国際女性会議実行委員会『ナイロビ大会を成功させよう大阪

国際女性会議』(同上、12月)

西浦宏己『アイヌ、いま―北国の先住者たち』(新泉社、12月)

西川文字著・天野茂編『平民社の子―西川文字自伝』

(青山館、12月)

日本婦人問題懇話会『日本婦人問題懇話会会報No.41』

(同上、12月)

内田真砂・赤松彰子『女・心とからだ―婦人科相談室五〇〇〇枚のカルテより』(創元社、12月)

東京大学消費生活協同組合『くつ音がきこえる―語り継ぐ戦争体

験』(同上、12月)

【社会啓発】

東上高志「(講座)やさしい部落問題7―Ⅲいま部落問題は・結婚」(『部落』四五〇号、10月)

(資料)『映画』部落「ここに生きる」についてのわれわれの見

解」(『国民融合通信』二二四号、10月)

竹内三美「地域改善対策協議会の意見具申から受けるもの」

(『部落問題―調査と研究』五二号、10月)

(資料)「地対協意見具申についての全解連の見解」(同右)

浜口嘉彦「(研究ノート)人権を守るために―広報紙づくりの手

引き」(『広報』三七八号、10月)

磯村英一「同和問題と地方公務員(第10回)―同和对策協議会の

役割」(『地方自治職員研修』二一八号、10月)

仲島隆夫「同和問題に関する意識調査と市民啓発」

(『京都教育大学紀要』六五号、10月)

横島章「同和問題の解決のために(下)」

(『人権通信』一一号、10月)

上田卓三「部落解放の人間像―私の青春時代」

(『社会啓発情報』二二号、10月)

香野貞人「連載・企業研修の課題」(同右)

坂本礼助「社会同和研修創造の基盤(3)」(同右)

長野「差別意識はどこから―その歴史および表象に関する一考察

(二)」(『ながさき部落解放研究』九号、10月)

《マスコミと差別・人権》(『部落解放』二二九号、10月)

福岡安則「差別語問題の現状と展望―マスコミと差別語問題」を出版して」

阪本義信「マスコミと『差別語』糾弾―毎月新聞社差別糾弾闘争を通して」

(資料)「地域改善対策協議会意見具申―今後における啓発活動のあり方について」(『解放教育』一八四号、10月)

全国同和教育研究協議会事務局『社会教育における同和教育の前進』(全国同和教育資料4)

(全国同和教育研究協議会、10月)

堺市・堺市教育委員会『しあわせをめざして手をつなごう』(同和教育シリーズ第12集) (同上、10月)

枚方市・枚方市教育委員会『生きることに』(同和教育学習資料12) (同上、10月)

松本茂「住民の生活課題を中心にした啓発活動」

(『解放教育』一八六号、11月)

新田尚「隣保館活動の実態」

(『解放の道―理論政策資料版』十号、11月)

村上博光「(動向)教育・社会同和教育・社会啓発の今日的課題―第24回社会教育研究全国集会的分科会討議から―」

(『部落』四五二号、11月)

東上高志「(講座)やさしい部落問題8」Ⅲいま部落問題は(その二)外の目」(同右)

村上博光「第24回社会教育研究全国集會報告―第4分科会差別

人権問題と社会教育」(『月刊社会教育』三三五号、11月)

平野一郎「生涯学習と人権」(解放出版社、11月)

山下恒男「差別の心的世界」(現代書館、11月)

香野貞人「連載・企業研修の課題―④感性と啓発」

(『社会啓発情報』二二号、12月)

加藤春恵子「差別問題とコミュニケーション」(同右)

元木健・吉田猪三・仲島隆夫・小森哲郎・林力・田村正

男・同宗連・東京同企連「地対協」意見具申をどう受けとめ

るか」(同右)

(資料)「大阪府高槻市人権意識調査」(同右)

香野貞人「企業と部落問題」(『部落解放』二二二号、12月)

横島章「差別意識と社会啓発」(同右)

田村正男「部落解放運動と私」(同右)

善積四郎「啓発活動と社会教育」(『部落』四五二号、12月)

(資料)「地対協意見具申」とこれからの社会同和教育・社会

啓発―第二回社会同和教育交流集會報告―」(同右)

東上高志「(講座)やさしい部落問題9」Ⅲいま部落問題は(その

三)内の目」(同右)

川内俊彦「やさしい人権教室」(解放出版社、12月)

藤原恵「ジャーナリズムの周辺」(関西学院大学、12月)

読完新聞大阪本社「窓」『記者の窓から2―走れ村の子負けるな

よ』(角川文庫5937) (角川書店、12月)

滋賀県解放市民センター「地域同和をめざす人権の友―展望ひら

く差別事象指導の心得」(同上、12月)

【文化・思想】

《創る—みんなで作る文化のページ》

(『部落解放』二一九号、10月)

《特集》「差別表現と教育」(『解放教育』一八四号、10月)

小椋善正「ある恥の記憶」

菱田 彰「差別とたたかうために—同じ人間であること

を」への検定をめぐって」

野口良子「仕事を賤しめる思想を撃つ」

渡辺鏡気「差別語の追放で何かが変わるのか」

色川大吉「差別語の意味を深く考えさせる」運動を」

楠 敏雄「差別用語と障害者解放」

朴 寿南「教科書から削られた『差別』」

寿日雇労働者組合「俺たちは怒っている」

富田博之「インターナショナルな視点、その他」

立石憲利「岡山の仕事歌」そうめん掛け場歌」

(『部落問題—調査と研究』五二号、10月)

土方鉄編「差別を考える」(三一書房、10月)

松兼 功「正の文化負の文化」(明石書店、10月)

福岡県同和教育研究協議会社会教育部会「部落の文化創造と再生

を(中)」(同上、10月)

部落解放同盟中央本部「部落解放第三回文化祭(たたかいの祭

り)」(同上、10月)

用語問題特別取材班「拡大する放送禁句第一〇弾—夏目漱石から

『ビッグコミック』まで」(『放送レポート』七一号、11月)

江崎誠致「差別者と被差別者の間—島崎藤村著『破戒』」

(『学習のひろば』二七三号、11月)

《創る—みんなで作る文化のページ》

(『部落解放』二二〇号、11月)

(文)川元祥一・(絵)井上洋介「創作・部落の昔ばなし—大悪

党」(『解放教育』一八五号、11月)

江藤巧也「連載・差別者の群れの中にへ7」(同右)

土方 鉄・川元祥一「対談」革はなにをめぐすか」

(『革』六号、11月)

山崎 智「残侠の死」(同右)

畑井政雄「ハンセン病療養所—岡山県邑久光明園を訪ねて上」

(同右)

住田教子「差別が私を強くした」(同右)

水上 勉「石よ笑け」(徂書房、11月)

多田留治「『破戒』の人びと」(新日本出版社、11月)

田宮 武「文学にみる差別表現論」(明石書店、11月)

沖浦和光「日本民衆文化の原郷—被差別部落の民俗と芸能」

(解放出版社、11月)

石元シゲ子「いのちの底が抜けた—少女と天皇の国」

(徂書房、11月)

《創る—みんなで作る文化のページ》

(『部落解放』二二二号、12月)

友永香鶴子「記録」西郷さんのおばあちゃん」ほか

(文)川元祥一・(絵)井上洋介「創作・部落の昔ばなし—よみ

がえった黒べえ」(『解放教育』一八七号、12月)

江藤巧也「連載・差別者の群れの中にへ8」(同右)

〔話し手〕前田忠蔵・中川善太郎・植岡和吉・梅岡広志〔聞き

手〕田宮 武〔聞き書き〕部落解放の人たち③」

(『ひょうご部落解放』一七号、12月)

藤井裕一「おぼえあると書いてまわつわ①」(同右)

編集委員会「ふるさとこのうた—北江—まてつき歌」

(『おおいた部落解放史』二号、12月)

増成啓人「〈部落問題との出会い〉父の言葉に共感」

(『部落』四五二号、12月)

立石憲利「〈岡山の仕事歌〉⑥田ひき歌」

(『部落問題—調査と研究』五三三号、12月)

北芝文部結成一五周年記念誌発行委員会『きょうだい—むむひ

のとしよりたち』(同上、12月)

岡庭 昇「身体と差別」(せきた書房、12月)

解放新聞社大阪支局『がんばってまっせ—解放運動と私のであ

い』(きょうだい2)〔解放出版社、12月)

【宗 教】

雀部倉平「(紹介)『同朋運動史資料』1」

(『部落問題研究』八〇号、10月)

原田伴彦「差別と部落—宗教と部落差別をめぐって」

(三一書房、10月)

新日本宗教団体連合会同和推進連絡協議会「宗教者と部落問題—

新しい教えのもとに生きる人々のために」

(新宗教新聞社、10月)

天理教同和推進委員会「陽気世界への歩み」(同上、10月)

《特集》「問われる宗教者の今後」

(『部落解放』二二〇号、11月)

青山直人「問われる仏教者の人間観—『性霊集』問題をめぐ

って」

阿部野龍正「〈資料〉民衆と共なる弘法大師—朝日新聞記事

に思う」

池田 昭「空海の差別思想—その理解の視座」

水上 勉・永井孝道「〈対談〉良寛さんは問いかける」

松根 鷹「差別体質の自己点検と自己変革を—問われる宗教

界の今後」

小野一郎「聖書における差別的表現について—その現実と今

日的課題」

編集部「〈ある闘い〉東岡山治牧師」(同右)

小森龍邦「業・宿業観と人間解放—現代に生きる良心」

(解放出版社、11月)

笠原初二著・滝沢克己編『なぜ親鸞なのか 笠原初二遺稿集』

(法蔵館、11月)

田村正男「宗教者は心の底から懺悔したか—『絶句』の奥にこそ

怒りと悲しみが…」

(『部落解放』二二二号、12月)

村越末男「宗教と部落問題」(『部落解放』二二二号、12月)
赤松賢秀「兵庫の『部落組』全面解体」
(『ひょうご部落解放』一七号、12月)

望月廣三「親鸞の解放運動論—その一視点③」(同右)
加藤鉄三郎「賀川豊彦全集第8巻『貧民心理の研究』をめぐって
(下)」

(『神学と人文 大阪基督教短期大学紀要』二四号、12月)
編集部「見直される賀川豊彦の業績と問題点」

(『信徒の友』四五八号、12月)

八木晃介「へ批評と紹介」差別戒名にみる日本仏教の残酷さ—
『石よ突け』水上勉」(『朝日ジャーナル』一三三二号、12月)

【通史】

阿南重幸「第3回九州地区部落解放史研究交流会報告」

(『ながさき部落解放研究』九号、10月)

杉本浩平「へ部落問題との出会い」新参者の回想」

(『部落』四五〇号、10月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史
—」(『17 歴史学への関心』(同右)

岡あきら「荆冠記第四部『曉雲』第五章」

(『部落問題—調査と研究』五二号、10月)

三郷町同和教育推進協議会「明日への確かな一歩をめぐって」三

郷町同和教育推進協議会解放講座」(同上、10月)

平野一郎「追悼・林 神一さん」

(『部落解放』二二〇号、11月)

内田正志「へ部落問題との出会い」忘れ得ぬこと」

(『部落』四五一号、11月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—あるインテリの自伝的歴史

」(『18』行動への第一歩」(同右)

稲垣有一・寺木伸明・中尾健次「部落史をどう教えるか」

(解放出版社、11月)

高木宏夫「(提言)部落史研究によせて・定例研究会講演」

(『おおいた部落解放史』二二号、12月)

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる—」(『19』飛躍の決意」

(『部落』四五二号、12月)

岡あきら「荆冠記—第四部『曉雲』第六章」

(『部落問題—調査と研究』五三三号、12月)

大谷大学同和教育委員会「身分差別の社会文化史」

(『同和教育資料』8) (大谷大学、12月)

河崎章雄編「赤い血—高知の部落史教材資料と解説」

(高知県教育委員会、12月)

【近代】

井手幸喜「(動向)研究・歴研大会塚田報告」三都の非人と非人

集団」—最近の身分制研究の動向にふれて—」

(『部落』四五〇号、10月)

のびしょうじ「へ連載5」撰津風呂谷の歴史」

(『月刊部落問題』九五号、10月)

研究部会(近代)「(史料解説)文政六年 備中・倉敷村の非
人宗門帳」(『部落問題—調査と研究』五二号、10月)

下部学「弾左衛門支配下における『場主』の性格」

(『一橋研究』九卷三号、10月)

吉田伸之「日本近世都市下層社会の存立構造」

(『歴史学研究』五三四号、10月)

河田光夫「大神人」(『こべる』八二二号、10月)

増田史郎亮「へ近世の被差別部落」吉成郡における被差別部落問

題について(補遺)」

(『ながさき部落解放研究』九号、10月)

増田史郎亮「落穂拾い(被差別民史)」(同右)

高島典夫「へ史料紹介」諫早藩日記」(同右)

細川涼一「新刊紹介・『京都の部落史3 史料古代中世』京都部落

史研究所編」(『史学雑誌』九三卷一〇号、10月)

塚田 孝「三都の非人と非人集団」

(『歴史学研究』五三四号、10月)

細川涼一「播磨国庄の『皮屋』」(『こべる』八二二号、10月)

永瀬康博「聖神社と皮革—姫路の高木と和泉の南王子村を中心と

して」(『御影史学論集』九号、10月)

山路興造「猿楽」(『こべる』八三三号、11月)

畑中敏之「近代『部落』史研究の動向—1983年の研究を中

心として—」(『部落問題研究』八一号、11月)

間瀬久美子「部落の生活史27—『部落』と神社」

(『部落』四五一号、11月)

横田冬彦「1984年度歴史学研究会大会報告批判(へ近世史部

会)笹本正治 近世の鋳物師と真鍮家 塚田孝三都の非人と非

人集団」(『歴史学研究』五三六号、12月)

永原慶二「(書評)網野善彦『日本中世の非農業民と天皇』」

(『史学雑誌』九三卷一二号、12月)

寺木伸明「被差別部落の歴史—起源から現代まで—」

(『部落解放』二二二号、12月)

川嶋将生「曲舞」(『こべる』八四四号、12月)

小林 茂「(書評)『近世部落史研究』小西愛之助著—」

(『ひょうご部落解放』一七号、12月)

《特集》「大分県における被差別部落の形成I」

(『おおいた部落解放史』二二号、12月)

梶田美純「県北における被差別部落の形成」

松下志朗「革細工渡り職人にみる自立と連帯—部落解放第四

回全九研第一分科会草稿」

編集委員会」(史料)『執腕録』抜書」(同右)

滋賀県同和教育研究所「八木山村古文書永代記録帳の研究」

へ部落史資料第9輯」(同上、1984年)

【近代】

米田 富「土方鉄・対談シリーズ・5—初期水平社運動の思い出

」(『解放教育』一八四号、10月)

編集部「部落問題研究への証言4—戦後初期部落解放運動の展開

—三木一平氏に聞く—」(『部落問題研究』八〇号、10月)

馬原鉄男「三木一平小伝―『三木日記』をとおして見た青年像

―」(同右)

中村福治「15年戦争下融和運動における模範青年の思想と行動」

(同右)

藤野 豊「神奈川県融和運動史年表(6・完)」(同右)

鈴木 良「明治維新と賤称廃止令」

(『部落問題―調査と研究』五二号、10月)

原田伴彦・上杉 聰編『近代部落史資料集成第一巻「解放令

の成立」(三一書房、11月)

栗須七郎翁顕彰事業実行委員会記念誌編集委員会『「水平道」

抄』(栗須七郎翁顕彰事業実行委員会、11月)

柴田啓蔵「土方鉄・対談シリーズ・6―九州水平社の創立の頃」

(『解放教育』一八五号、11月)

川向秀武「九州地方の被差別部落と解放運動」

(『解放教育』一八六号、11月)

土屋政一「融和事業を振り返って(上)」

(『こべる』八三号、11月)

新藤東洋男「近代部落史研究の成果と課題」

(『部落問題研究』八一号、11月)

大森久雄「(動向)研究・『賤称廃止令(解放令)と岡山』をテ

ーマに―岡山で夏期研究会―」(『部落』四五二号、11月)

秋定嘉和「部落解放運動史入門」

(『部落解放』二二三号、12月)

土屋政一「融和事業を振り返って(下)」

(『こべる』八四号、12月)

(グラビア)「大分県が生んだ解放運動の先駆者・毛利千造」

(『おおいた部落解放史』二号、12月)

佐藤 節「帆足亮吉とその部落解放論」(同右)

小大丸裕「高橋貞樹研究のための資料紹介と今後の研究課題」

(同右)

中根剛誠「大分県における戦前の融和運動」(同右)

川部友次「聞き書き・わが反軍闘争―連合艦隊第七戦隊・吉田事

件―」(同右)

遠山茂樹「へ本棚<部落史の研究・近代篇」

(『部落』四五二号、12月)

大森久雄「浪柴一揆と賤称廃止令」

(『部落問題―調査と研究』五三号、12月)

佐田昌弘「備作平民会と『平権の大義』(上)―自由民権運動と

の関連」(同右)

山口 圭「忘れぬうちに・思い出(その1)―人民解放同盟結成

準備会のごころ」(同右)

大谷 正「融和運動と満州移民」

(『専修史学』一六号、12月)

京都部落史研究所『京都の部落史6 史料近代1』(同上、12月)

埼玉県部落解放運動史編纂委員会『埼玉県部落解放運動史』

(『部落解放同盟埼玉県連合会、12月)